

日には稲毛沖，幕張沖，茜浜，船橋航路等で青潮が確認された。この青潮は17日にはほぼ消滅した。

3・4 9月6日～7日の青潮

9月6日朝，船橋港内，千葉中央港内，及び稲毛沿岸で青潮発生が確認され，さらに午後には船橋港～市川航路で青潮が確認された。港外の青潮は徐々に薄くなり，翌7日までにはほぼ消滅した。

3・5 9月26日～9月30日の青潮

9月26日には船橋港内，船橋航路，千葉中央港内，新港，稲毛沿岸，及び幕張沖から茜浜で青潮が確認された。三番瀬においても青潮が確認されたが，他地点に比べると薄く，同日夕方までに消滅した。翌27日には，他地点でも青潮の範囲は縮小したが完全消滅には至らなかった。千葉中央港，新港，船橋港では薄い青潮が9月30日まで残った。

3・6 10月12日～10月17日の青潮

10月12日11時30分頃までに市原市五井海岸から習志野市茜浜，船橋航路，市川航路に至る沿岸部に青潮が確認された。10月12日の船橋港内の水質鉛直プロファイルを図2に示す。表層水のDO濃度は0.39mg/Lと低く，酸化還元電位も表層から負の値を示している。また，濁度が海面から水深3.4m付近まで非常に高く，水深3.5m付近で急激に低下していた。これは還元状態にあった底層の硫黄分が湧昇によって大気に触れ，部分的に酸化されて生じたイオウ粒子によると思われる。青潮による海水の濁りが明瞭に認められた例である。

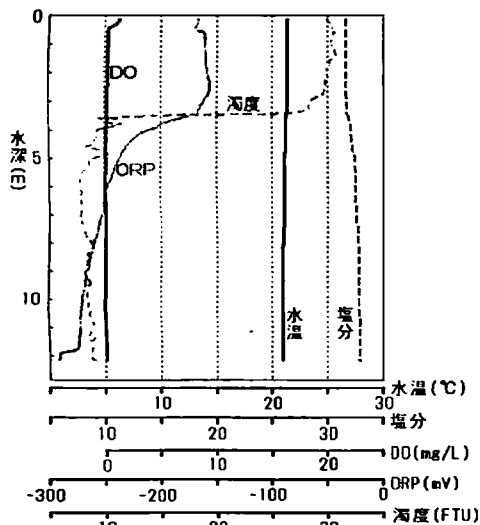


図2 10月12日の船橋港内の水質鉛直プロファイル

3・7 青潮継続日数と北系風の連吹

2005年は青潮発生回数が6回と，近年になく発生が多かったが，そのうち前半の4回は青潮の継続日数が3日以内と，短期間で消滅した。青潮発生時及び発生直前の日のうち東北東～北西の風が吹いた日を表3にあげた。表から，前半4回の青潮時には，青潮が発生した後，速やかに北よりの風が止んでいたことがわかる。一方，青潮が薄くなりながらも長引き，消滅までに5日間を要した9月26日～30日の青潮時には青潮発生の26日以降も北よりの風が吹き続け，北よりの風が止んだ30日ようやく青潮の消滅をみたことがわかる。また，10月12日～17日の青潮時には発生翌々日の14日にいったん北よりの風が止んだものの，次の15日から再び北系の風が卓越し，8日間吹き続けている。この間に海水は完全に混合し，この大規模な青潮が消滅した後はもう青潮の発生がみられなくなったと考えられる。

4 まとめ

2005年の青潮発生回数は6回であり，1回は大規模であった。前半4回は比較的短期間で終息した。漁業被害の報告はない。

謝辞

本調査は千葉県環境研究センターと千葉県環境生活部水質保全課との共同調査であり，ご協力いただいた関係各位に深く感謝します。

参考文献

- 1) 風間真理，渡部健一，蓬田健児：東京湾は生きているか。東京都環境行政交流会誌，28(2004)。
- 2) 飯村 晃，小林広茂，小倉久子：東京湾の青潮発生状況(2004年)，千葉県環境研究センター年報第4号(2004)。

表3 青潮継続期間と北系風連吹期間

	1	2	3	4	5	6
青潮期間	5/16 ～17	5/31 ～6/1	6/15 ～17	9/6 ～7	9/26 ～30	10/12 ～17
北系風連吹期間	5/11～ 14, 16	5/29 ～31	6/13 ～16	9/4 ～5	9/23 ～29	10/9～ 13, 15～22